

退院時 ADL は目標とした ADL と一致するのか

岩井 知太¹⁾ 荻原 達也¹⁾ 石森 卓矢¹⁾ 風晴 俊之¹⁾ 美原 盤²⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 リハビリテーション科

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経内科

[目的] 当院回復期リハ病棟の初回カンファレンスでは、多職種協働で退院時の目標とする FIM(目標 FIM)を設定し、それを患者と共有することにより目標指向型のリハを実施している。今回、目標 FIM と退院時 FIM の解離を調査した。

[方法] 2018 年 4 月から 2019 年 2 月に回復期リハ病棟に入院した脳卒中患者 153 名を対象とし、目標 FIM と退院時 FIM、それぞれの下位 18 項目、および運動項目合計、認知項目合計、総計を比較検討した。

[結果] 整容、清拭、更衣(下半身)、トイレ動作、浴槽移乗、問題解決の 6 項目、運動項目合計、総計において退院時 FIM が目標 FIM に比べ有意に低かった($p < 0.05$)。

[考察] 有意差を認めた 6 項目に関しては、目標を高め設定している、あるいは到達する余地を残して退院した可能性が示唆される。従って、これらの項目については目標設定の適切性とともに入棟期間のあり方も検討する必要がある。